

2. 招へい青年感想文

真の友情のための30日

勤労青年グループ
季 賢 熙

“初めてたどる道”

だから、緊張と期待と好奇心が入りまじったものなのではないだろうか。

時間を忘れ、場所を忘れ、世間を忘れ、思いに浸り、

お互いの心に思いきり酔いたかった。

垣根も、間仕切りも、境界もなく……

砂糖と憎悪の国、経済大国、日本。

日本について、特別の知識はなかったのに、擦れていない新鮮さで、多くのことを感じてみようと思いつ、韓国の空を飛び立って30日あまり。

「日本の生きているすべてのことを知り、感じて、学ぼう。」

こんな思いは同行した仲間全員の気持ちであった。

果たして、今日の日本を存在させる精神はいったい何であるのか？ 社会、文化、産業史および経済、政治に関する全般的な講義を主とした、最初の1週間。伝統技術と西洋技術の調和を土台にした完全な自己の創出、個人に先だち組織がまず第一である。自分よりまず国家が第一だという思考が、今日の経済日本をつくったのではないかと思った。それなのに、私たちの垂直的思考と日本の水平的思考、言いかえれば、私たちの歴史の重視と、日本人の現在、未来の重視の調和、歴史を重要視しながら未来を考える望ましい社会性を心の中に描いて見た。東洋の哲学である調和と互いを尊重する倫理を忘れないでいようということだ。

少しずつ感じていく、日本のもっと深いところ

にあるものを体験していく、2、3週目。日本青年たちとの交流交歓会、ホームステイなどは普通の人たちの考え方や生活様式を理解するという意味で興味深い時間であった。青年たちとの出会いにおいては職場内の労働条件、余暇、福祉制度、政策的な支援の満足度など、多様な意見交換があった。不満の表出を余暇の有効利用によって解決しようとする肯定的な理解と高い見識などは、私たちに何かを考えさせた良い点であった。この期間中、行われた企業訪問は、実質的な意見交換というより、たくさんの企業を見学するための日程であったため、十分に理解するには至らなかった。むしろ、何日間か、1つの企業に勤務する方法はどうだったろうか？

最後に、名所旧跡などの観光地は、自然さを失っておらず、緑があり外からの侵略がほとんどなく、史跡の保存がよくなされていた点は、本当にうらやましかった。先祖から外国の文物をそのまま受けつぐのではなく、新しい自己創造に努力することは、今日の日本の精神の原形を見たようで印象深かった。しかし、全体的には、頻繁な日程の変更、形式を重むることによる時間の遅延、韓国代表団だという言葉の前に出しながらも、公的機関の表敬訪問時に代表者が不在であるという誠意のなさ、大韓民国の国旗掲揚時の不手際などは肯定的に見ようと努力する我々の視角をくもらせてしまった。

今、整理をしながら日韓の真の友情のために、敢えて提言するなら、上っ面の両国間の交流に努めるより前に、日本国内に居住する韓国人たちについての再認識、処遇改善が先行しなければならないのではないかと思う。一つの例であるが、原爆被害の痛い傷痕、広島平和公園、1人の少女の

痛みを唱えることができる日本人が、自国の利害関係のために異国で凄惨に亡くなっていった2万人あまりの韓国人の痛みを、橋の向うのすみに放り出した現実を前にして、真の友情を論じるとは皮肉なことではないだろうか？心と心で互いに思う本当の友情の花は何を元肥にしなければならぬのか、正確さを好む日本人の思考パターンで再考し、再認識すべきだと思う。

終りに、私たちに多くのことを考えさせてくれたJICA、および関係されたすべての方たちに、心からの感謝の気持ちをささげながら、この文を結びます。

あなたと私という個々の立場からはなれて、私たちという名前で、力強い新しい出発を期待しながら……。

大韓民国青年日本訪問団

勤労青年グループ

金 鎮 淑

まだ暖かさの残る季節に成田空港に降りたったが、今ではもう冷たい風が服の内側にしみおとるのを感じる。

初めて海外に出るのは心がときめく一方で、1ヵ月会社を留守にしなければならない申し訳なさを抱いて、飛行機のタラップを登った。

もうすでに30日がすぎた。

振り返ってみると、質より量にかたよった、あまりにも忙しい日程の連続であった。

11月8日、2時20分、成田空港を出発して、途中のバスの車窓から眺めた、あちこちの風景は、ただ看板の文字だけが異なっているだけで、韓国と大きな違いは見られなかった。

個人的な望みだが、少しは異国情緒に浸りたかったのに……。

しかし、今、1ヵ月という期間を過ごした後の思いは、両国間で壊さなければならない障壁が、

あまりにも厚いということを感じずにはいられないのは残念だ。

まず、彼らに奥深く内在している優越感でことに当たり、我々の水準をまったく考慮しない見学地や訪問先の選定、広島^{*}の平和記念公園の外にある韓国人原爆犠牲者慰霊碑^{*}などを見る時、両国が関係の改善を掛け声で叫びたてても、具体的な改善なくしては、真の隣人になることはできないことを心から感じた。

我々の「関係改善」問題は韓国にいる韓国人と、日本にいる日本人との友好問題ではなく、日本にいる韓国人と日本人との問題であることを、だれも否認することはできないのだ。

このような我々青年たちの考えを、日本の青年たちに伝えるには、今回のプログラムはあまりにも短すぎ、心残りを多くしたと思われる。

けれども、日本人について、もっともよく知ることができた2泊3日のホームステイでは、つましくて、個人主義的ではあるが、時間を徹底して守る責任感の強い国民性を見ることができてよかったと思う。

今、我が故国、大韓民国の懷ろに帰って行く日までに2日を残し、これまでの日程などを整理してみると、あまりにも多くの日程を一度に受け入れるあまり、もう少し細かくお互いを知ることができなかった点かもどかしく感じられた。しかしこのような機会が多くなればなるほど、また、お互いがもう少し深いところで対話をすればするほど、両国の関係は改善されるだろう。そうなれば両国の若者たちが21世紀の主役になることを信じて疑わない。最後に、今回の計画に協力して下さったJICAの皆様^{*}に感謝の気持ちを伝えたい。

* (註) 韓国人原爆犠牲者慰霊碑について

昭和39年、広島県関係者や学識経験者により、広島市平和記念施設運営協議会が設置され、平和公園

の管理、運営に当ることになった。これは、平和公園という聖地でもあり、観光施設でもあるという特殊性を持った施設の運営に当るためであった。公園の敷地が限られている条件下で、公園内への記念碑や慰霊碑の設置がますます増えつつあったが、昭和42年になり、公園内への時計塔の建設に関する審議の際、今後公園内には記念碑や慰霊碑を設置しない方針が打ち出された。以後、この方針に基づき公園内には一切工作物は許可されていない。そのため、その後の記念碑や慰霊碑の設置は、公園の周囲の河川緑地に多くなっている。なお、昭和42年以降に公園内に建てられた記念碑や慰霊碑は、それ以前に許可申請が認められたものに限られている。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑は、昭和45年4月10日に在日大韓民国居留民団広島県本部により建設された。当初、公園内への設置を希望していたが、広島市平和記念施設運営協議会の決定により、公園内への建設が不可能となったため、朝鮮王朝最後の王世子李垓殿下の甥で、当時騎兵第五連隊に所属していた李錫公殿下が被爆し発見された、相生橋に近い本川橋西詰めの河川緑地に建設された。

郷愁（ホームシック）

勤労青年グループ

金 亮 起

まるで修学旅行を目の前にした子供のようにはずむ心と好奇心のため、行って見たこともない日本の姿を描こうと眠れない目を過ごすうちに日本に着いた。

はじめの1週間、退屈な講義と砂糖だらけのような食物は強いホームシックに我々を追いこみ、1ヵ月の日本滞在が非常にたいへんなものであると感じさせた。

またその1週間、講義が終ると1ヵ所でも多くの場所に行ってこようと、夜になると三々五々グループをつくって、銀座、新宿、上野等、まるでくつわをとかれた小馬のようにくまなく歩きまわり、日本の外貌をさっと見るのに懸命であった。そして我が国と比べながら、あるいは悪い面ばかり選んで頭の中にたたきこんだ時であったかもしれない。

人工的に配列されたビル群は、看板だけ日本語

であるのみで、ソウルのある部分と似ていると思いい、違うといえば街角にちらばって捨てられているたばこの吸いがらや紙くずが多いという点と、電車の中や街角で会う無表情の行進、公衆電話のボックスの中にはりつけられた刺激的な宣伝などであった。特に我々がおどろいたのは、スーパーマーケットや本屋で売られている顔が赤くなるような雑誌と、その本を恥ずかしげもなく広げて見ている青少年を見た時であった。そのような光景を目にして教師である私は、日本でこれ以上学ぶことはない、と判断するのに十分であった。この時は、日本の経済的豊かさまでも否定的な側面からながめていたと言っても過言ではない。

そのためかホームシックは深まるばかり。普段は書いたこともない手紙を書くのに熱中し、数えきれないほど電話をかけ、声だけでも国に届けようとした。

そうしながらも、我々はいつの間にか日本の生活に慣れていった。

やっと日本各地の旅行と見学がはじまると、あわただしい日程に追われ、少々の不便にも慣れて、日本の風物がよそよそしく感じられなくなった。特に日本人の親切さはホームシックの治療にいい薬となった。ある時、駅である女学生に道をたずねたことがあった。切符の買い方から乗り場まで案内してくれた後、我々が無事に電車に乗り、出発するまで待って手を振ってくれた。あの女学生の親切は暖かい愛情を我々の心に植えつけてくれた。これは永遠に思い出の中に残り、消えないことだろう。

工場や研究所などを訪問しながら、今日の経済大国日本を築き上げた原動力はいったい何であったのかを知ろうと苦心した。しかしそれを知るためにそれほどの努力は必要としなかった。三代続いた家業を受けつぎ、誠実に働く確固たる職業意識、一つの面に全力投球する日本人の使命感、そして一日中市場の中に立ち、市場を案内する女性

の決して恥じたり、疲れをみせたり、面倒くさからない徹底した責任感が、すなわち今日の日本を達成させた原動力であると一目で理解できた。

そうこうしているうちに我々の出す手紙の回数も減り、電話の近くに集まる青年たちも少なくなりホームシックもだんだん治っていったのに気がついた。

そして我々が一番期待し、心配もしていたホームステイがはじまった。私は農村(二宮)に行っただけで、2泊3日の間、日本の伝統的家庭と生活習慣を見ることができるといい機会になった。

紙面が少なくていちいち書くことはできないが、日本の都市では見られなかった姿を私は見た。家族の一員としてあたたかくむかえてくれ、善意と愛情を惜しみなく与えてくださったおじいさん、おばあさん。一つでも多く見せてくれようと、一生懸命努力して説明して下さった。また十分に言葉が通じないためにおかした小さなあやまちを、むしろいい思い出だと言って理解して下さった柳川氏ご夫妻のこまやかな心づかいで、私はまるで故郷に来たような気持ちで過した。そして我々は別れる時、互いに一つになることができたこと心の奥深く刻み、我々の友情を涙で確かめあった。そしてこのように素朴で善良な人々が、なぜ過去のあの悲しい歴史を作り出したのかという疑問が心に浮かんだ。とにかく私は新しいホームシックの種を心の中に抱き、再び我々の日程に合流しなければならなかった。

そして、私は今までのぎくしゃくした歴史的なしこりをほぐすため、21世紀に向う我々の友情のため富士青少年センターで2日間、夜を徹して日本人と討論した。そして我々は発見することができた。悲しい歴史的關係を心の底から残念に思い、真剣に友情を願う日本人もいるということ、そして友情のために努力しているという点も。また我々みんなが友情のために努力しようと心から乾杯のグラスを打ちあわせた。

日本を旅立つ3日前、ホームステイのホストファミリーからみかん狩りの招待をうけた。その日のみかん狩りには、アジア10カ国(韓国、日本、中国、台湾、ベトナム、シンガポール、ホンコン、マレーシア、フィリピン、スリランカ)の若者たちが一堂に集まり楽しんだとてもすばらしい機会であった。そしてその場で我々若者すべては、アジアのみならず世界の人類の平和と友情を一層かたく約束しあい、また一生懸命努力することを誓いあった。

今、この1カ月をふりかえり多くのことを見、聞き、感じ、学ばせてくださった中曾根前日本首相と日本政府、そして我々を一生懸命見守りお世話くださったJICA関係の皆様とあたたかくお世話くださったホストファミリーの皆様、もう一度深く感謝のことばを述べたい。そして友だちになった日本の友人に対して新しいホームシックを心に抱き韓国に帰ります。ありがとうございました。

友だちになるべきだ

農村青年グループ

宋 應 俊

どこよりも若い血気あふれる我々のグループは、それぞれ異なった地方から集まっていたので、団結するのが大変だったが、大多数が農業を経験しており、若いという理由とセマウル青少年会の理念によってすぐに親しくなれた。

長い旅行時間でもバスの中では合唱が響き、冗談も交しながら、それぞれ流行語を作り出した。「自動カーテン」、「プーマー」、「ランボー」等のはやり言葉が雰囲気を高めた。時間がたつにつれ、それぞれの個性が見え始め、これが日本青年との交流会へと延長され、楽しい時間と残念な時間とを分けることができた。

韓国と日本、未来に向かう友情の国として、残念なことは互いに相手の国の言葉が分からず、志

は同じなのに十分に意志を伝えることができなかつたことだ。特に我々のグループは合宿セミナー、交流会等の多くの集まりがあったのに、言葉が通じず英語もあまり上手でなかったのが、今回は互いの国を知ろうとするのに一番必要なのが言語であるということを確認する機会となった。

誰もが肌で直接感じていたが、日本の若者は自分とまったく同じ見解を持っているということには感銘を受けた。世界5大洋6大陸には各種各様の多くの人々が住んでいるが、韓国と日本等、アジア国家で世界を動かせる関係を持ち協力し未来を建設していこうという、固い信念に満ちた決意であった。こうした関係を樹立するためには、韓国の一日も早い民主化と絶対的安定が必要だという忠告もあった。

最後に日本で感じたことを個人的に述べようと思う。

第一に、日本人の正直さと秩序だ。いい加減な物売り買ひしないのが通例になっている。いくら急いでいてもクラクションを鳴らさず、交通違反をする人は見かけられなかった。

第二に親切さと奉仕精神だ。もちろん、韓国人の親切さと奉仕精神も世界において劣らないと思うが、他国のことは美しく見えた。

第三に共同精神は韓国が秀でていた。学んでいる我々若者が、我が国の伝統を最大に生かし努力すれば、我々にもできるという自信を持つ機会だった。

互いの心を学び、常に相手の立場を尊重しながら自分の主張を述べ対話をし、つき合っていけば友人になれると確信する。21世紀の真の国家の主人公として、与えられた環境に最善をつくり、飢えた獣がエサを求めさ迷うように、我々農村の若い旗手よ、絶えることない前進と未来をひらく闘争をしよう。

ありがとうございました。

指輪1つの約束

農村青年グループ

金 順 男

いつの間にか半月が過ぎようという11月21日。私たちが東京から青森という所に移動する日だった。そこは東京より気温が低い所ということは聞いていたが、その日はとりわけ寒い日ようだった。しかし、青森駅で見なれた両国の国旗を持ち「ようこそ。嬉しいです」というあまり上手でない韓国語で書かれた幕と100羽の折り鶴で作った首飾りを一人一人にかけて暖かく迎えてくれた日本の青年たちの優しさは、寒い冬の日であることさえ忘れさせてくれた。

また夕方のオリエンテーションの前に、ホカホカにふかしたお味噌を持って来て、お腹のすいていた私たちを喜ばしてくれたり、ゆで卵に25名の名を書いて1つ1つ手渡し、励ましてくれた菊地さんの暖かさは、彼女がすでに私たちの友人であると感じられた。

その後、浅虫水族館、リンゴジュース工場、長い生産農家等、多くの所を見学したが、やはり2泊3日間のホームステイ期間は私にとって多くのことをもたらしてくれた。言葉と習慣が違うので精神的負担や心配があったのは事実だが、ジェスチャーでお互いの気持ちを伝え合おうとしたその瞬間だけは、本当の友情交換の時だったと思われる。

大切にしまってある着物を私たちに着せてくれ、私たちは韓国服を着せてあげてお互い声をあげた出会いは、いまやそんなに遠くはない身近な隣人になり得たという証しであった。明け方から、私たちのために準備してくれた、青森のお母さんの真心の五目飯は、懐かしい故郷の母の愛と等しかった。とりわけ雪の多く降った日！ 名残り惜しい別れに、白い雪は行く道をふさぐようであった。いつまでも忘れないでまた会いましょうと、指に

はめてくれたきれいな1つの指輪との約束が、今日のように雪の降る日にはより一層懐しく思い出される。短い期間だったが、私の得た、いや私たちすべてが得た「優しさと約束」の意味は、これからもっと多くの汗と結びつき、私の祖国KOREAに伝わるであろう。

なつかしいK兄へ

青年指導者Aグループ

尹 景 泰

K兄さん、お元気ですか？

日本へ出発する前、K兄さんと釜山で一緒に酒をくみ交しながら、多くのことを語りあった日が、つい先日のごとくに思われます。日本での1ヵ月にわたる生活も終りに近づき、今は帰国の準備をしています。最初は、価値のある1ヵ月を過ごすため、最善をつくそうと堅く約束したにもかかわらず、実際、異国の土地の風土と透き間なく組まれた日程で生活してみると、まさに韓国に帰ろうとしている今、何よりも自分自身の怠惰さと安逸さのため、今回のこの貴重な機会を充実した日々として送ることができなかったことが、心残りです。しかし、今からでも心を落ち着かせて日本での経験を整理し、それを契機として、より広い世界へと視野を拓ける時代になるよう努力しなければなりません。

K兄さん！ 私たちの国のことわざに「ソウルへ行ってみたことのない人ほど、ソウルのことをよく知っている」というのがあるでしょう。直接、経験をしてみないで聞いたとおり、思ったとおりに話をする人々を評していることわざだと思います。私も同じでした。日本に来る前、日本人の意識構造、生活環境、政治経済等日本について教えきれないほどの話をしてきました。

しかしながら、実際に1ヵ月間、オリエンテーション期間の講義、3泊4日にわたる日本青年と

の合宿セミナー、2泊3日のホームステイ、日本の重要文化、産業施設見学、観光等を通して、日本の姿をいろいろな角度から見極めてみた今、感動で胸は一杯になりましたが、実際のところ表現する方法がありません。

K兄さん！ 特に日本中央青少年団体連絡協議会の青年たちとの合宿セミナーは、私の胸の中で忘れぬ思い出として、いつまでも残るでしょう。真に国家と国家間の障壁を取り除くということは、政治制度や協定ではなく、お互いの心を開き人間と人間の真実の出会いを、切実に体験することだと思います。合宿セミナーは、長い間の日本人に対する先入感、日韓間の歴史的葛藤のため、心の片すみで緊張感をいっばいに抱いていた私たち一行を解放してくれました。合宿セミナーでは、両国の文化、教育、青少年団体活動、韓日問題等のテーマで4つの分科会に分れ、2日にわたり討論しました。私は青少年団体活動についての分科会に入り、両国の青少年問題と団体活動の現況について重点的に話を進めました。特に消費志向の文化や、意識構造において、日本を模倣する傾向の強い私たちとしては、日本の青少年問題とその解決の過程については、関心を持って話を聞きました。私が私たちの分科会の書記だったので、全体討議で発表をするため、日本側の書記であったE婦人、そしてリーダーとともに、明方4時まで5時間にわたり、共同で要約文の作成に取り組み、その時のことが今でも、心に深く残っています。

そして、レクリエーションとスポーツを通し、お互いに体と体でぶつかり合い、汗を流しながら1つになることができたこともよい思い出です。最もすばらしい万国共通語は、Body Languageということも確認できました。もちろん平素から会話の勉強をもっと一生懸命にしなければならぬということもわかりました。

今回、日本での一番の思い出は栃木県でのホームステイになると思います。青年会館でホストフ

ファミリーとなる家庭の主人であるN氏に初めて会った時には、2泊3日の日程があまりにも漠然としていて心配になりました。けれどもすぐに、その方の親切で細やかな配慮に父母以上の情を感じるようになりました。その方は、私たちの日程表をご覧になって、私たちが見学や観光をしないところで、是非見せたいところを選び案内して下さいました。その中でも足尾という日本最大の鉱山地帯では、第2次世界大戦時、死亡した日本人と外国人を追慕しながら平和を願う平和観音像を見ることができ大変に幸運でした。そしてその方は、韓国語を学ぶ集まりにも参加していました。それで最初の日の夕方、ハングルを学んでいる会員4名と共に夕食をとることになりました。その中でも八百屋をやっているY氏の庶民的で気のおけぬ雰囲気、一緒に行った同僚と私は、身振り、手振り、英語、日本語、韓国語、漢字等を総動員して話をし、それでも通じなければ辞書を引きながら話し、楽しく過ごしました。また、韓国人と日本人のユーモア感覚が大変によく似ているということも感じました。場を盛り上げながら日本の「四季のうた」と韓国の伝統民謡「珍島アリラン」を合唱した時には、全員が楽しくて肩を組み踊りました。すべての人が韓国人に対して深い愛情を持ち、過去において日本が韓国を侵略した事実、そして今日でも日本で民族差別の名残りがいたるところに残っている事実について、心から詫げられました。

栃木県を発つ日、ホームステイのお母さんと娘さんが一緒に駅まで見送りに来て下さいました。お母さんの小さな手を握り、お別れのあいさつをした時には目頭が熱くなり、急いで踵を返して列車に乗りました。今でもホームステイした時のことを思うと、ひとりでの思い出し笑いをしてしまうことがよくあります。

K兄さん！ 過ぎた1ヵ月の日々を締めくくろうとすると、万感の想いが胸に去来します。韓国に

いると日本がもともとどういう国なのかという、根本的な疑問が出てきます。ここで驚いたことは、日本人の大多数が、特に若くなれば若くなるほど過去の歴史について無知であるということです。青年たちに会った時、私たちは各々の壁を持っていましたが、日本の青少年があまりにも開かれた心で私たちを迎えたため、当惑したりもしましたが、そのことにより私たちが日本に対して持っていた閉ざされた心を、少しずつ開くことができるようになりました。

K兄さん！ 日本を見ながら感じるこの気持ちを端的に表現しようとしたら、二重性だと言うことができるでしょう。制度面においては、大変に進歩的であり民主的な社会構造や意識の根底には、基本的に保守性が濃く潜んでいました。平和を愛しながら、一方では少なからぬ人々が、過去の軍国主義に対して郷愁の思いがあるように思えました。特に通りで、ほとんど毎日集会を開いている新保守主義的傾向をもつ政党のポスターや垂れ幕を見ると、胸がどきっとさせられました。大多数の日本人は善良であるけれども、一部の政治エリートの新保守化傾向に対しては警戒せざるをえません。両国の若いインテリたちの深い交わりにより、このような現象を克服するため、各々の努力をつくさなければならないということを切実に考えます。

また1つ感じたことは、日本人は思考が非常に現実的であるという点です。どのような文物も積極的に使いこなし、自分のものにすることができたことも、ここに由縁していると言うことができるでしょう。科学的で具体的であるため、いかなる討論をしようとしても、客観的な資料と根拠について話を進めなければ認めてもらえません。このような点は学ばなければならない点であると思います。

今ここでは、韓国に対する関心が高まってきています。その1つはもちろん、来年、韓国でオリ

ンピックが開催されるためであり、もう一つは、韓国での大統領選挙に対する関心です。思ったより韓国の大統領選挙に対する関心は高く、正確な視点に驚かすにはいられませんでした。私たちが自ら大統領を選択するというこの重大な歴史の転換期において、K兄さんはどのような活動をしているのか、本当に気になります。私も早く帰り貴重な一票を投票しようと思います。

K兄さん！日本で出会った貴重でありかたい友人たちを忘れることができません。幸運にも私たち一行は会誌を通して、継続的な交流関係を続けていくことにしました。これは1ヵ月間の出会いがそれだけにとどまらず、より理解を深める上で役に立つでしょう。個人的にも、今回の訪問は生活の質をより成熟させるよいきっかけとなるでしょう。

K兄さん！私たちが別れる時に行ったあの屋台で、文字では書き表わすことのできない数限りない話のできる日を期待しています。話のタネをたくさん用意しておいてください。では釜山で会う日まで、健康に気を付けてください。

さようなら。

1987. 12.

尹 景泰より

箱根の思い出

青年指導者Aグループ

藤 美 蓮

日本にくることになり、私は友人や身近の方々にたくさん学んでくるようにと言われ、重荷を感じた。なぜならば、私が日本のことを一体どれほど学んで帰れば、彼らの役に立つのだろうか、自信がなかったからである。

JICAによって組まれた日程は、韓国で事前オリエンテーションが行われた時に説明されたものと、ほとんど違いがなく進行され、この文を書いてい

る今は、日程の総仕上げ段階にある。

31日の間、私はいろいろな機関を訪問し、数十人の日本人に出会うことができ、有名な観光地にも行ってみた。このような機会は度々あるというものではない。それゆえに、私が今回『21世紀のための友情計画』に参加できたことについては感謝の念で一杯である。日程表を見ながら過ぎた日々を振り返ってみると、その瞬間瞬間がすべて貴重な思い出であるが、その中でも箱根ランドで合宿セミナーに参加したことが、私にとっては一番大切な思い出となった。

私が所属した青年指導者Aグループは、日本青年20名とともに4つのテーマで、分科会討議を行い、その中で私は「文化の差」をテーマにしたグループで討議した。私たちは与えられた時間の許す限りお互いを理解しようと努力し、日本と韓国の相違点と類似点を発見していった。類似点は日本と韓国が同じ東洋の漢字文化圏にあるということであり、高度成長を成し遂げてきた点において似ている点が多い。また相違点については、韓国の行政体系が中央集権的なことと、日本のそれは地方自治的であることを知ることができた。

韓国の文化的特徴を説明しようとした時に私たちは、中央集権的な行政体系が地方へ与える影響について説明しようとしたが、日本側から「文化」が討議テーマであるにもかかわらず、なぜ政治の話ばかりするのかという質問が出て当惑したりもした。そして日本側の青年の話の中から、地方自治体において地域間の生活方法や思考方法の差が大きいということも学んだ。この討議は私たちすべてにとって貴重な経験であったに違いないと、私は自信をもって語ることができる。共に討議に参加したすべての人々が記憶に残っているけれども、その中で最も印象的だったのは曜子さんだ。彼女は2人の子供のお母さんで、家庭の主婦であり、また彼女の住んでいる愛媛県に並々ならぬ郷土愛を持っている。

彼女が地域のため活動に取り組んでいることは、婦人問題、育児問題、父母教育、消費者運動そして都市文化の流入等があげられるが、意を同じくする会員が曜子さんを含め3名の女性だけであり、財政的にも自立していかなければならない状態であるという言葉聞き、驚きそして尊敬の念を抱かずにはいられなかった。私たちは冗談半分本気半分で、曜子さんを地方議会に送らなければならないとさわぎ、皆と一緒に手をたたき笑った。

私も郷里で職場を持っている者として、心のどこかで地域社会に対する関心はあったけれども、もし、私に意を同じくする友人が2人しかいなかったとしたら、戸惑うだけでやりたい仕事ができないような気がする。曜子さんは本当に勇気のある女性だ。

私が日本に来て学んだことがあるとしたら、誠実に一生懸命に生活しようとしている日本の青少年たちの態度である。曜子さんの他にも一緒に議事録を整理するため徹夜した杉山さん、私たち一行を何度か訪ねいつもお土産げを持って来てくれた野入さん、大門さん、淳子さん、理世(みちよ)さん、荒木さんがいた。合宿セミナーと一緒に集まったすべての友人たちが最善をつくして真剣に討議や熱の入ったスポーツや面白かった交流会に参加した。多分、私を含めた団員全員が、今回このプログラムに参加した経験を友人たちに誇ることであろう。日本の青少年のように、私も今後地域のためそして、私自身のために一生懸命頑張りたい。21世紀の世界平和のために……。

文化交流の真の意味

青年指導者Bグループ
房 珍珠

人類の歴史は数十万年、数百万年、あるいはそれより長いとしても、文明が生まれたのは数千年前に過ぎない。

その時より今日までの時間は、人間の長久な歴史をもって比較してみる時、一瞬に過ぎないと言えるほど短いものだ。故に、これから何十万年、何百万年の月日が流れ、人間はより進歩向上し、互いに争いや不幸のない理想社会を築くことができると思われる。

今日のような混乱は、ある見方によってはこうした理想社会を築くための試練だと言える。人間は生々発展という宇宙の摂理に従い絶え間なく進歩向上しているが故に、このような見解は一面においては正しいと言えるだろう。人類が互いに心を合わせ、調和しながら、望ましい方向に進歩向上して行くのは不可能なことであろうか。世界が今のような状態で発展だけしていけば、不幸も紛争もほとんどない地球村が築かれるのだろうか。私にはそうだとばかりは思えない。

現在のような状態でいくのならば、人間の将来はやはり今までと同じように進歩とともに、弊害も増えていくだろう。しかし、この時代と今後展開していく新しい時代にも、本当に望ましい人間生活を営んでいくことのできる道はきっとあると思う。その道に向かって絶えず挑戦し模索できる秀でた霊的な本性が人間には与えられているのだ。それならその道を見つけるために、どうすれば良いか。部分的に見ればそれぞれ案が出るだろうが、何よりも重要なのはまず人間自身が自らの本質を正しく認識することである。

人間の知恵は人によって異なるが、いくら偉大な人でも限界があるのだ。限られた知恵で万事見て考えても、実像を十分に把握できないし、時にはあやまちを犯す結果を招く。

こうした意味で、個人、社会、国家同士互いに自分の利害得失や感情に傾かず、率直な姿勢で何が正しいのかに對して、意見を交換し衆人の知恵を集めていくよう努力しなければならない。

さまざまな異なった状況の中で最高の知恵が出る時、そこに最善の道を見つけることができるだ

ろう。

韓日両国が、国家利己主義の次元でない世界平和と人類の繁栄という大乗的見地から、政治、経済、文化等の各方面で活発な交流を持つことになる時、両国は来る21世紀に世界史の主演として登場するようになるだろう。

韓日の青少年と青年指導者の交流の目的も、このように国家間の利害や損得を問う前に、すでに指摘した徳目の具現に貢献しようとするにあると信ずる。

韓日両国の交流が絶えることなく続けられることが、両国間に親善と友好の増進の契機がもたらされることを望みつつ、私たちが日本を新たに見て、感じることでできる機会を作ってくれた日本政府と、このたびのプログラムの幹であるJICAに熱い感謝を申し上げる。

ホジメマシダ (始めまして)

青年指導者Bグループ
文 炳善

「ホジメマシダ」という言葉は日本での研修のために韓国で実施された日本語教育の時間に、「ハジメマシテ (始めまして)」を間違えてある人が「ホジメマシダ」と発音したものである。教室は笑いの渦に包まれたが、その言葉は愛嬌があり仲々良いということで彼には「ホジメサン」というあだ名がついてしまった。

私たちは自然に彼を「ホジメサン」と呼ぶようになり一層の親近感を持つようになった。ところが研修期間中、某機関を訪問した席で団長が相手方の機関長に「ホジメマシダ」と言って失敗したということを伝え聞き、何日にもならないのに習慣というものがどれほど重要かということを知らされた。

韓国と日本は地理的にも近い位置にあり、歴史、文化、経済的に不可分の関係にあるということは

周知の事実であるが、細かい点では大なり小なりの相違点があると思われる。まず顔立ちが似ており言葉の順序が同じなので、親近感を持たざるを得ないし、儒教思想に伴う敬老精神とか誠実性等は大変類似していると言えよう。けれども日本の若い男性の中で口髭をたくわえている人がいたり、若い女性がためらいもせずタバコを吸うところは韓国とはちょっと違う習慣ではないかと思われた。

事実、日韓両国間の関係は緊密ではあったが歴史的に見るならば不自然な関係、否、不幸な関係であったという事実——より正確に表現するならば韓国は日本に対して友好的であり親善関係を望み、文化的に多くのことを伝えたが、日本側は韓国人には忘れることのできない痛みを与えたということである。しかし、「雨降って地固まる」のことわざにあるように、親しい者同志は喧嘩もよくするが、すぐ仲良くもなれるということである。ここでひとつの重要な事実は、過去のあやまちにこだわってこれからの長く希望あふれる未来を誤らせてしまうということは、過去のあやまちより大きなあやまちを犯すことである。

このような意味において、今回の日韓両国間の親善交流は大きな意義があると言えよう。国際交流とはまず相手方をよく知り深く理解することから始まるものであって、個人間の友情が芽ばえ、個人が集まって集団となり、集団の意思が国家を動かすものではないかと考えると、今回の長くも短くもない1ヵ月間の交流研修は本当に有意義かつ価値あるものだと思われる。

1ヵ月間の日程が大変緻密で合理的に組まれていたため、当初の計画どおり間違いなく実行されたこともまず大きな成果であったが、オリエンテーション・プログラムを通じて日本の歴史、文化、経済、社会等について深く学び得たことも大いに役に立った。富士青少年センターでは2泊3日の短い期間ではあったが、たくさんの日本の青年との交流を通じてお互いをより深く理解することが

できたし、様々な機関や団体を訪問し勤勉で誠実な日本人と世界最高の富める国である日本の真の姿をより詳細にわたって知ることができた。

福岡県を訪れた時は、人々の顔立ちからして私たちと似ていて親近感を持つことができたし、人々は大変親切で、また、食事も韓国と非常に似かよっていたので心からの感謝の念を禁じ得なかった。ホームステイ受け入れ先の主婦は日本人であるにもかかわらず出生地が韓国の珍島であったし、その時代に私の親は日本に留学していたことを思い合わせると「アイロニック（皮肉）」な感情と同時に、韓国と日本は切っても切れない不可分の関係だということを実感せざるをえなかった。

また日光、箱根、宮島、奈良、京都、阿蘇山等の絶景と風光明媚さは「家を離れば苦勞のみ」という韓国のことわざが間違っていたと感じさせるほどであった。

今、いつの間にか1ヵ月という短い期間が過ぎ、惜別の時が来た。短い期間ではあったがもうすでに情が移ってしまったようだ。別れを前にして目にかぶ顔、顔、顔！ しかし韓国でまた会えることを約束し、1度結ばれた友情が更に深まる日を楽しみに別れの痛みに耐えよう。

国際交流とは大袈裟なものではなく、個々人が互いに関心を持って理解し合い友情を深めることが真の国際交流への近道ではないかと思う。今回の日韓両国親善友情交流のために労苦を惜しまず仕事をしてくださった日本政府当局者とJICA関係者の皆様に真に感謝する次第です。

“ホジメマシグ！”



国立博物館(ソウル)

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

私のすべての心の友へ

神奈川県・団体職員

岩間 敏之

拝啓、お変わりありませんか。

4日間の合宿セミナーはまたたく間に終わってしまいましたが、今でも過ぎし日々を思うと胸がおどり、平凡な日常生活では体験できない興奮を覚えます。私の心をこれほど熱くさせたのは、韓国青年の愛国心と一致団結の精神にほかなりません。彼らの母国や仲間を思う心に、参加した我々日本人の誰もが感動したのではないのでしょうか。

始めのうちは何となく気はづかしい思いをしていた我々が、最後は心を完全に開いて互いに語り合いました。建前やお世辞の無い心の交流が我々のハートをいかに熱くさせるか、体験して初めて分かるのだと思います。

言葉がうまく通じない中での交流手段は、心しかありません。そして我々は無意識の内に日本人同士とも心で接し合っていたのです。会話などなくても心は常に通っています。君と一緒にいることによって私はどれほど安らぎを感じたことでしょう。

社会に出れば知り合いはたくさんできます。しかし、我々が必要としているのは心の友たちです。その意味で韓国青年との心のふれ合いは私に思わぬ副産物をもたらしてくれました。

君の心と通じ合うことができて幸せです。いつまでもこのふれ合いを大切にして下さい。

敬具

心に残った事

東京都・学生

大門 玲子

「参加するか、否か」迷っての申し込みであったセミナー。私にとって、様々な体験と多くの知識を得ることのできた有意義な時間であった。

参加中は言葉の壁にぶつかり、英語、韓国語、日本語の3ヶ国語をチャンポンに使っての交流だった。たったひとつの単語を相手に伝えるために、手には辞書を持ち、手振り、身振り、筆談で、悪戦苦闘をしながらも、お互いに納得がいくまで話し合ったこともあった。

その中でも、私の一番の思い出という、最終日のCグループ(教育分科会)の交流会でのことである。コーディネーターの方に通訳をお願いし、いくつかの質問を韓国の方にさせてもらったが、話しが通じなかったことがあった。1つ1つ丁寧に通訳をしてくださったが、どうしても質問の内容がくい違ってしまっているのである。紙の上には漢字、英語、ハングル文字が並び、コーディネーターの方をはさんでの会話。なかなか思うように通じ合わなかった。会話の中には、専門用語も入り交ったが、「どう言ったら？」と腕を組んでしまう場面もあった。しばらくして、コーディネーターの方から、「日本は具体的な言い方、韓国では抽象的な言い方で、くい違っているのでは？」と言われ、私自身質問の仕方を変えるべきであることに気がついた。韓国と日本、日常生活で身につけている物の考え方の違いがあることに驚かされた。韓国の方もこれを聞き、思わず笑みを浮かべていた。その後、お互い理解できるよう、それぞれの日常にあった説明の仕方をするにより、誤解をど

くことができた。長時間の会話で、話し合えたことは数少なかった。しかし、得られたことは、たいへん貴重なものであったと思う。

セミナーでは、近くて遠い韓国的一面を学ぶことができた。セミナーで育てた「友情」を今後も大切にしていき、自分の友人にもセミナーでの体験を伝えていきたいと思う。

最後に、韓国の方々との交流を感謝したい。

近くて遠い国

埼玉県・学生

春日 理世

昨年の夏に私は「近くて遠い国」韓国を訪問する機会を得た。青少年団体の派遣ということもあり、学生向けプログラムでいろいろな場を通して韓国の学生と交流することができた。その時はお互いに学生同士であるしすぐに打ち解けることもできた。「日本人」であることをあまり意識することもなく、今思えば明るい面ばかり見てきたのではないだろうか。

今回の合宿セミナーに参加する前までは、前述したような気持ちでいた。けれども実際に分科会に分れて話し合いが始まると、青年指導者の意見はやはり学生のそれとは違った厳しさがあつた。実際に韓国に行った時に感じた以上に、韓国は「近くて遠い国」であることを認識させられたように思う。やはり日本は韓国にとってはマイナス的イメージの強い国なのでは、と感じる。それは果たしてすべての「日本人」に対してであるのだろうか。

私は今回の交流を通して得たものを振り返って見るに、この問いに対する答えは「NO」であると思う。たしかに抽象的な「日本人」についてはマイナスの要素の強さが感じられたが、個人としての「日本人」に対してはそれは違うのではないだろうか。韓国という国についてもっと知りたいと

いう姿勢があつたからかもしれないが、それにしても私たち日本人一人一人がもっと多くの理解と知識をもって日韓関係の問題に臨めば、「遠さ」が縮まると思うのである。同じ人間なのだから、「日本人」という殻にかくれたり、またそのイメージを持ったまま接したりすることがなくなれば、お互いに理解し合うのにそれほど時間はかからないのではないだろうか。

今回のプログラムで生まれた友情がもっと大きなものに育ち、それがお互いの国全体に少しずつでも広がっていくように努力したいと思う次第である。

合宿セミナーに参加して

北海道・公務員

岡野 賢

これから、私の素直な感想を文体を気にせず、ありのまま述べたいと思います。

私はこのセミナーに参加するにあたって2つの目標を掲げていました。それは、①韓国の青年と友だちになろう ②日本の青年と友だちになろう、ということです。自分自身これには満足のいく点数がつけられると思います。それほど今回のセミナーは私にとって大変有意義なものであり、大変楽しいものでありました。

韓国の人々はみな社交的であり、陽気な人々なので内心驚いてしまいました。もう少しかたい人々かなと思っていただけです。しかし、物事をはっきりするという性格もありました。これは、日本人が見習わなければいけないことでしょう。

言語の違いなどを除けば、なんら日本人と変わりありません。韓国と日本に壁などないと思いました。私は次第に韓国(人)が好きになり、無理なく彼らの中に入っていくことができました。

私は難しい話と韓国語ができず、英語も少ししかできないので、私のがんばれる場所は夜の交流

会しかありませんでした。私はその一杯飲みながらということが好きですし、また、交流するうえで必要なことだと思います。

そうこうしているうちに、4日間があつという間に過ぎ、別れの時が来てしまいました。韓国人と別れることはもちろんですが、日本人と別れることもつらかったです。それほどこのセミナーでは韓国も日本もなく、同じ合宿をした1つの集団として、行動してきたからでしょう。

今、思うことは、参加して本当に良かったということです。これからも韓国、関東、関西、四国、沖縄の人々と交流を続けていきたいと思います。

最後に、この事業の主催者である国際協力事業団と中央青少年団体連絡協議会には心から感謝申し上げます。そして、大変でしょうが、これからもこういった事業が末長く続くことを念願しペンを置きたいと思います。

セミナーに参加して

兵庫県・学生

杉山 知子

今回のこの日韓青年合宿セミナーは、私にとって予想以上にすばらしいものであり、また爽りの多いものであった。

箱根での、ディスカッション、交流の夕べ、オリエンテーリング、スポーツ大会等どれも印象深いものばかりであるが、ここでは特に、3日目の夜、4人の韓国人と時間を忘れて日韓関係について話しこんだことについて述べたいと思う。

その晩、お風呂をすませ部屋に戻ろうとしている所を、ある日本人の方に、日本での韓国大統領選の報道を英語で説明してほしいと呼びとめられ4人の韓国人との会話が始まった。

最初は、日本での報道とそれに対する彼らの意見を聞き、また大統領選における地域感情といったものの現状を聞いたりした。

そして、話は日韓の経済関係や南北統一問題へと発展していった。経済に関しては、改善されない対日赤字について厳しい批判をされ、それに対して私も韓国の財閥や中小企業のあり方や経営形態について、限られた知識内ではあったが意見を述べ、今後の日韓経済協力のあり方を話しあった。また南北統一問題に関して、その少なからぬ原因は日本にあると言われた時は少しショックであった。それまで私は、南北統一問題は、韓国と北朝鮮さらには第2次大戦後の米ソの争いによるものだと思っており、日本は部外者であると思っていたからである。歴史的事件に対してその捉え方が、国が異なると、これほど変わるものかと、歴史に対する考え方の差異を痛感した。

もちろん、ソフトな話もした。たとえば、モラルの低下や価値観のあり方といったことである。儒教の影響をうけている韓国でも、現在徐々に、モラルが低下しつつあり、それに対して危機感を抱いているとか、価値観も相対的なものよりも絶対的な価値観が重要であり、なぜかと言うと、絶対は真理だからだと言っていた。モラルの低下は、歴史的必然性であるとしあまり重視していなかった私にとって、また真理を追求するよりも、その時の状況に応じて、価値観を変化させる傾向にある日本人にとって、彼らの考え方を理解するのは、決して容易なことではないと思う。彼らのモラルや価値感に対する考え方が開けたのは、とても有意義であった。

そろそろ眠たくなってきたなと思った頃、時計は1時半をまわっていた。実に、4時間近くも話しこんでいたのである。

寝食を共にし、外国人とじっくり話をする時間が多くあるこのプログラムは、日本と外国との相互理解(特に草の根レベルでの)に対し、とても意味のあるものであり、これからも続けていくことが望ましいと思う。

4. ホストファミリーの印象

李吾京が我が家に来て

神奈川県・自営

高梨 真光

李吾京^{リウォキョン}が我が家に来てから4週間が過ぎ、韓国へ帰ってからも、もう1週間過ぎました。我が家ではみんな彼のことを吾京と呼びますが、彼が我が家を去ったあとも、「どうしているかなあ」などと思っているのです。

たまたま私がハングルに非常に興味があったので、今回のホームステイ・プログラムは実際に今の韓国で生きているネイティブ・スピーカーに出会える大変良い機会でした。

彼はどこへ行く時も必ずペンを持っていて、今までに聞いたことがなかったような日本語を耳にするとすぐにメモを取っていました。と同時に、こちらの話すハングルもおかしなところは何回も言い直してくれ、お互いにホームステイを楽しみながら言葉の勉強をしあったようなものでした。たった3日間でお互いの国の言葉が少し上手になったようで、私が韓国の言葉、彼が日本語で「うまくなったね」などと言いあえるほどになったのです。本当に不思議なことなのですが、彼が我が家にいる間、私は意識をしていることもないのですが、不十分ではあるにしろ、ハングルが自然に口から出ていました。まるで日本語を話しているように。

また我が家のみんなはハングルの世界はほとんど初体験だったのですが、不思議なことに何の異和感もなく吾京も家族の一員として溶け込んでいたのです。親戚の子が我が家に遊びにきていたようなのです。

吾京は不完全ながらも日本語で「私とあなたは

永遠(に)友だち」と言っていました。そう言ってもらえたことは本当にうれしいことでした。

もしも今度こちらから韓国を訪れることがあったとしたら、是非彼の家を訪問したいと思っています。今回は本当に楽しい体験ができたことに感謝します。また今回の交流にあたって実際に韓国の青年たちをお世話された方々、お疲れさまでした。本当によい体験ができ、素晴らしい友だちを作れたことを大変うれしく思っています。

韓国青年を受け入れて

青森県・農業

浦田 秀人

韓国と聞いて、場所は中国の方だっけ、大きさは？ 貧しい国だよ、こんな知識もない私が韓国青年を受け入れるなど予想もつかなかった。

農村青少年クラブに県の青団協から、韓国との国際交流の機会を得て皆ではりきっている所に、ホームステイ家庭を数名ほしいという話がきて、私を含め7人が受け入れることになった。私は、その後ある程度の韓国の知識を得ようと思ったが、思うだけで、頂度その頃韓国の大統領選挙のテレビ放送で少し知っただけだった。母や妹は、言葉が通じないことや、食事や普段の生活までいろいろ心配したが家に連れてきてみると、おかわりは2回するなど食欲は旺盛で、身振り、手振りで話は通じないながらも楽しく母も安心していた。

次の日は、朝から小雪が降っていたが、母と相談し、パイプハウスのビニールの後始末をしてもらうことにした。1棟目は身振り手振りで説明すると2棟目は、先にどんどんん仕事をしていき驚いてしまった。昼食後、風雪がやや強くなったが、



我々はこれくらいでも働くから仕事をしようということで長芋掘りをすることにした。私が機械で2、3本掘ると、説明しなくとも機械を動かしたり止めたり、遅いながらも上手に掘り、さすが韓国の農村青年だと思った。今度は畑の端を機械が入れるように2、3メートルためしに掘ってもらおうと今度はなかなか掘れず、それでも夢中で掘っているのもそのまま続けていると、畑がどろどろになっていた。が、最後の方になるとかなり上達しており、最初寒がっていたのに寒さを忘れて働いていた。

私は韓国青年を受け入れて、農業を通し仕事に夢中になっている彼を見て感じたことは、言葉が通じなくても、目的が同じであれば目で心が通じ合えるものだということである。そして彼らは、私たちよりも明るく、少しのことにも興味を持ち感動している。韓国は日本にもかなり輸出し中進国であるが、日本はいくら先進国でも心は発展途上になっている。これからも、各国との交流を深め、日本の反省すべき点を見つけ、心ととも先進国となるようにと願う。私は地域から国際と様々な角度から見つめ、人間皆兄弟の精神で人との和を持っていきたい。

2泊3日のホームステイを終えて

青森県・農業

三浦 博寿

今回私は、大韓民国の農村青年25名のうち、男性一人、チヌギョウ崔教烈氏をホストしました。

まず感じたことは、彼ら韓国人は、目上の人に対してずいぶん礼儀正しいというか、尊敬の意を表していることでした。私の家に来て初めての挨拶をする時でも、家族にどうぞ座ってくださいと身ぶりで伝えた後、自分も正座し、床に頭がつくほど深く頭を下げたのを見て、まずそう思った。また夕食の席においても、お酒とタバコは、私の父親がどうぞ召しあがってくださいと言うまで飲まず、お酒を飲むにしても目上の人に見えないように背を向けて飲んでいました。

親を敬う気持ちはおのずと祖父母、また祖先を敬うことにつながっているのでは、と老人をじゃま物扱いする懸念のある日本のことを考えずにいられませんでした。

もう1つ気になることがありました。

日本人はいまだ韓国のことを朝鮮というくらいがあることです。韓国人にとってはまだ根強くその面での反日感情があるのです。

ある豚舎見学に行った所に居合わせた中年の人が、話のはずみで「朝鮮はどうのこうの」と、その朝鮮という言葉が発してしまったのです。崔さんは顔色ひとつ変えずその人と会話をしてしまし



たが、心の底ではたぶんやるせない気持ちで一杯だったに違いないと思いました。はっきり言って自分が最初に話しておくべきだったのですが、しかし、もう少し本当の韓国に対する日本の歴史を日本の国民に知らせ、大韓民国という正式の国名がある国なのだとすることを知らせることが必要だと思いました。それがこれからの日韓友好が、今以上に喜びのあるものになるのではと、ひしひしと感じました。

韓国青年と

青森県・農業
佐々木 和枝

私は、他国人との交流、ましてやホームステイなど初めての体験でした。まず家族の承諾から始まり、事前研修、交流会と何とかホームステイまでたどりつきました。

韓国人と言っても、今にも日本語で話しかけられそうなほど日本人と似ており、物おじせず、積極的だということをつくづく感じさせられました。私の家へは、バンキョンファン万敬欄 22歳と、チヨンナヨムジヤ鄭点子 18歳の2人がホームステイに来ました。万さんは落ち着いた性格のようだし、鄭さんは学生と言うことで子供っぽい所がまだまだありました。2人とも、とても明るくて家族ともよく話をしていたようです。内容は、お互いの家族のこととか仕事のことなどでした。こんなふうには1日が過ぎ2人ともぐっすり眠れたようでした。2日目は松本さんの所へホームステイした2人と、私の家の者たち6人でショッピングに出かけました。女性はやはりアクセサリー類に目が行っていったようです。この日の夜は、三沢地区の4Hクラブの人が集まり、ボウリングをしたり、松本さん宅で雑談などして楽しい1日を過ごしました。お互い若い人たちですから、それぞれ目あての人を口に出しながら、身振り手振りで言葉をかわし、心から笑える時間が持



て本当によかったと思います。ホームステイに来た人々も満足して帰ってくれたと思います。

普通ではできない体験を私はしたわけで、私にとっても、家族にとっても、とても良い勉強になったと思います。韓国青年にしても、私たちにしても、国を背負って行く立場は同じですから、これからの農業ということをもう1度見直さなければならぬと思いました。これを機に、ホームステイをいつでも受け入れるつもりで、頭や腕をみがいて行きたいと思います。

近くて遠い国、韓国

青森県・農業
川口 勉

3日間のホームステイを終えて、私が感じたことは文字どおり「近くて遠い国」である。

交流の幕は歌で開けられた。リーダーの指揮ひとつで、声高らかに歌い陽気に踊る姿、まわりにとられることのない前向きな姿勢は韓国のめざましい発展を示しているようだ。「愛国心」という言葉が浮かぶ。彼らこそ、その言葉にふさわしい民族である。

韓国人は、日本を敵視していると聞いていた。しかし、彼ら青年と語り合ううちに、不安の霧もはれていった。2日目の夜、同じ町のホームステイ受け入れ家庭が集まり会食した。食後の一時、漢字とジェスチャーを交えた会話がはずんだ。韓



国では、年長者のいる前では煙草や酒は飲まないという。また、酒の飲み方、つぎ方にもマナーがあるという。彼らの律義さに感心させられた。

帰り際に、「サラヘ」と「螢の光」を歌った。「螢の光」が韓国にもあったことには驚いた。ひとつの歌を互いの母国語で歌った。これが「音楽に国境がない」ということなのだろうか。

地元のホームステイの7軒が集まり、ボウリングをした。無邪気に楽しんでいる顔、姿に、国の区別はない。スポーツでうちとける若者に言葉はいらぬ。

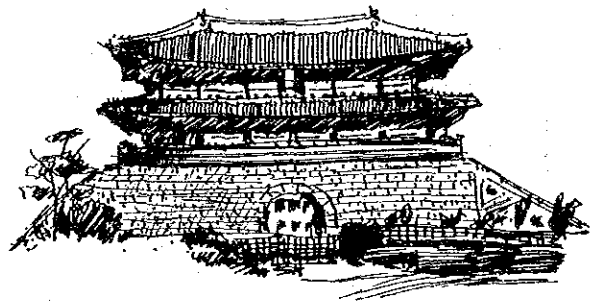
我が家に宿泊した青年は囲碁をたしなむというので、一戦交えた。囲碁では上手な方が白を取るというマナーがあるが、互いに黒のとりあいっこになった。あらためて、大陸から伝わった文化を思った。古く聖徳太子の時代には、朝鮮に渡り文字、宗教、建築技術など、さまざまな文化を授かった。それなのに、ほんの数十年前の戦争が、両国を「近くて遠い国」にしてしまったのである。

韓国青年は、私たちが忘れ去ったものを持っていた。今、日本はあらためて、彼らに学ぶべきことがあるのではないか。

大韓民国は今後、益々発展するだろう。

私は日本をもっともっと住みよい国にして、いつかまたあなたがたをむかえたいと思う。また機会があれば、韓国にも是非行ってみたい。

韓国青年は囲碁は少ししかできないと言ったが、私は、31目の差で負けた。



南大門(ソウル)

5. 招へい青年名簿

*氏名

*現職

*連絡先

*電話：職場，自宅



成蒼薰 (総団長)
Chief Director
Dept. of Planning
National Institute of
Educational, Research &
Training
230-119 Changwui 1 Dong
Sungbuk-ku Seoul Korea
02-733-2491 02-912-1480



尹漢哲 (副団長)
Director
Vocational Edu. Section
Ministry of Education
217-203 Jugong Apt.
Banpo-Dong Kangnam-Ku
Seoul Korea
02-720-3334 02-599-2276



黄炳洙 (幹事)
Assistant Director
Non-Formal Education
Ministry of Education
Samick Green Apt
608-201 Myungil-Dong
Kangdong-ku Seoul
Korea
02-720-3403 02-478-8674

勤 勞 青 年



申 洺 (班長)
Assistant Director
Women & Minor Division
Ministry of Labour
Ministry of Labour
Labour Standard Bureau
Kwachun-City Kyoungki-Do
Korea
02-503-9746 02-557-3154



趙明信
Official
Nuclear Cooperation Division
Ministry of Science &
Technology
Nuclear Safety & Coopera-
tion Office, Min. of Science
& Technology Gwacheon
171-11 Korea
02-503-7651 02-919-0555



崔敬花
Staff
PF Production Division
Kolon Industries
Company
Kyungbuk Gumeec
Gongpan-Dong 212
Kolon Co.
Korea
0546-2-2181 0546-2-2178



嚴愛里
Student
Precision Measurement
K.I.M.M.
Sijim Lim Apt 614
7-9 1638-1 Sill Lim-Dong
Kwanak-Gu Seoul Korea
02-841-0541 02-882-5563



威美玉
Staff
Product 1
Haitai Cofectonery
Co. Ltd.
647-55 1-Tong 7-Ban
Dungchon-dong Kangseo-Ku
Seoul Korea
02-677-7766 02-634-4721



全潤順
Staff
Production Division
Hahnil Textile Co. Ltd.
Haniil Bangjik Complex
430-2 215 Haki K-Dong
Nam-Ku Incheon-City
Korea
032-864-7224 032-864-7225



金鎮淑
Clerk
Export Division
Yoo Jin Metal Co.
Yoo Jin Metal Co.
581-36 Chang-Dong
Dobong-Gu Seoul Korea
02-992-8452 02-992-7475



辛漢玉
Staff Division
General Department
Shany Co. Ltd.
173-3 Gamjeon-Dong
Buk-Gu Busan Korea
051-93-6681~7 051-93-6681



安辰鎬
Teacher
Teachers Division
Yeongbong Primary
School Kwangju
240-36 Sinahn-Dong
Buk-Ku Kwangju-Si
Korea
062-55-1251 062-525-5712



安龍爽
Student
Electronics Division
K.I.M.M.
535-23 Silrim 8-Dong
Kwan Ank-Gu Seoul
Korea
02-841-0541 02-867-5136



曹東柱
Senior Staff
Science Affairs Div.
The National Science
Museum Seoul
National Science
Museum 2 Wa Ryong-Dong
Jongro-Gu Seoul Korea
02-762-5204 02-742-3105



洪全杓
Senior Clerk
Labour Policy Division
Ministry of Labour
2nd Government Bldg.
1 Chunang Dong Kwachun
City Kyonggi-Do Korea
02-503-9730 02-684-3051



鄭在成
Teaching Assistant
Department of Biology
Korea Institute of
Technology
Dept. of Biology, Korea
Instit. of Technology
400 Gugung-Dong
Choong-Gu Daejeon Korea
042-823-1234 042-525-3462



金鍾南
Student
Heat Management
Korea Institute of
Machinery & Metals
1404-Ho 1215-Dong
Jugong Apt. Chulsan
3-Dong Koang Myung-Si
Kyunggi-Do Korea
02-841-0541 02-688-4403



金貞完
Ladle Preparation
First Steel Making Div.
Pohang Iron and Steel
Company
Gyungshangbuk-Do Pohang-Si
Dongchon-Dong 5-Bu Nji
Posco Jegang-Bu 1
Making Steel Korea
0562-7092160 0562-43-1951



金亮起
Teacher
Teacher Division
Dalsung High School
Daegu
Dalsung High School
Naedang 7 Dong Seo-Gu
Daegu Korea
053-52-2954 053-622-2092



高光老
Assistant Director
Manpower Development
Ministry of Science &
Technology
808-401 Government
Official Apt. 307
Kodug-Dong Kangdong-Gu
Seoul Korea
02-503-7617 02-470-1157



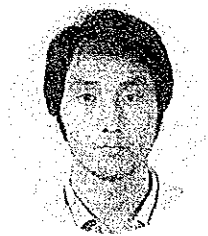
高宗煥
Meteorologist
Pusan District Branch
Korea Meteorological
Service
Pusan Meteorological
Service 1-9 Deachung-Dong
Chung-Gu Korea
051-44-7009 051-44-7009



李鍾壽
Staff
General Affairs Sec.
Tongyang Moolsan
Co. Ltd.
Dongyang Moolgan Co.
Ltd. 803-17 Iri-City
Jonrabuk-Do Korea
0653-2-7111 0653-6-2252



李賢熙
Staff
E.D.P.S.
Hyosung Industries
Co. Ltd.
Computer Room Blok A-1
Changwon Industrial
Complex Nai-Dong Chang
Won Kyungnam Korea
0551-82-0141 0551-82-3136



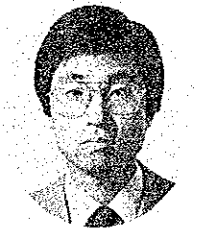
李吾京
Student
Engineering & Design
Korea Institute of
Machinery and Metals
296 637-5 Ah-Hyun
2-Dong Mapo-Gu Seoul
Korea
02-841-0541 02-363-8789



李允鎬
Teacher
Teachers Division
Dusan Primary School
Chungwongun
297-81 Tob-Dong Cheong
Ju-Si Chung Cheong Buk
Do Korea
0431-50-4202 0431-64-6861



車相炫
Technical Engineer
Research & Planning Div.
The National Science
Museum Seoul
2 Waryong-Dong
Jongro-Gu Seoul
Korea
02-762-5205 02-354-6938



南成浩
Teaching Assistant
The School of Ee & Cs
Korea Institute of
Technology
Korea Institute of Technol-
ogy Eecs 400 Gusung-Dong
Chung-Gu Taejeon Chungam
Korea
042-823-1234 042-524-7705



吳成鎭
Staff
Personnel Adm.
Samsung
Electro-Mechanics Co.
314 Maetan-Dong Suwon
Kyungki-Do Korea
0331-30-5893 0331-30-5893



朴在信
Student
Management Science
Korea Institute of
Technology
400 Gusung-Dong Jung-Gu
Daejeon Chungnam
300-31 Korea
042-823-1234 062-232-9983



柳鍾埀
Meteorologist
Korea Meteorological-
Service
Korea Meteorological-
Service
1 Songwol-Dong, Chongro-
Gu, Seoul 110, Korea
02-737-0011~0017
0391-43-1129



徐貴錫

Assistant Chief
Chemicals Supply C.
Korea Science
Foundation
627-251 Anyang 5-Dong
Anyang City Kyoungki-Do
Korea
02-555-2043 0343-3-6235
44-5971



石在圭

Student
Engineering & Design
Korea Institute of
Machinery and Metals
269 Eui Jeongbu-2-Dong
Eui Jeongbu Kyunggi-Do
130-30 Korea
02-841-0541 0351-42-6252



申世珍

Staff
General Affairs
Changwon Carbureter
Ind. Co. Ltd.
Changwon Plant: 853-12
Wae-Dong Changwon
Kyung-Nam Korea
0551-82-5201 0551-82-5201



元增喜

Teaching Assistant
Dept. of Mechatronics
Korea Institute of
Technology
400 Gusung-Dong
Jung-Gu Taejeon
Chungnam Korea
042-823-1234 042-252-1948



元裕尊

Staff
Technology Department
Goldstar Instrument &
Electric Co. Ltd.
499 Doil-Dong Songtan-
City Gyeonggi-Do
180-85 Korea
0339-8-2191 0339-8-8364



梁鶴模

Engineer
Mechanical Engineer
Baikyang Company Ltd.
658-117 Aongsan-Dong
Jeon Joo-City Korea
0652-5-5011 0652-75-1453



柳在垣

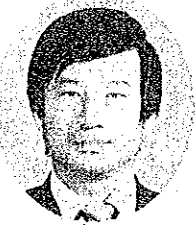
Engineer
Bus Manufacturing
Asia Motors Co. Inc.
913 Dong Ho-Ree
Bongang-Meon Kwang
San-Goon Chun Nam
Korea
062-265-0031 062-362-7886



尹永光

Chief
Science Promotion Sec.
Korea Science
Foundation
960-12 Daechi-Dong
Gangnam-Gu Seoul Korea
02-555-0838 02-885-4723

農村青年



金成泰 (班長)

Assistant Director
Int'l Cooperation
Min. of Agriculture
Forestry & Fisheries
#106-508 Joogong Apt
Nacson-Ri Euiwang Eup
Siheung-Kun Kyung-Gi
Province Korea
(02)-500-2644 (0343)54-4546
2645



方敬蘭

Farmer
Nan Jeong 1Ri 780 Kyo
Dong Myon Kan Hwa Kun
Kyeong Gi Do Korea
0349-32-4566



邊順南

Chung Nam Spining
Company Chean Mill
106-2 Wha Cheon Dong
Chen An City Chung Nam
Do Korea
0417-565-0001 0372-2-4835



鄭点子
Farmer
94 Gak Dong Ri Bong
Huang Myon Na-Ju-Kun
Jeon-Nam Korea



金美貞
Staff
Inspection Department
Il Shin Electric
Equipment Co. Ltd.
42-3 Won Mi Dong
Bu-Chun City Kyung-Gi-Do
Korea
(Il Shin Electric Co.)
32-662-6661 32-662-6661



金順男
Head
Dept. of Production
Dae Han Raw Silk Co.
Ltd. Youngju Factory
315 Eup Nea Ri Sun
Hung Myun Yong Pung
Gun Kyung Buk Korea
0572-2-2318 0572-2-2318



金蓮姬
Farmer
Nochen-Iri 507 Dong
Myeon Hong Chen Gun
Kangwondo Korea
0366-33-5528



李在順
Farmer
142 Jung Bang Ri Soon
Seong Myeon Dangjin-Kun
Chung Cheon Nam-Do
Korea
0457-361-4850



李淑伊
Farmer
487 Samjung-Dong
Kimhae-City Kyung-Sang-
Do Korea
2-7983



李永淑
Staff
Refrigerator Division
Golostar Co. Ltd.
Kum Sung Co. 391-2 Ga
Eumjung-Dong Chang-Won-
City Kyung-Nam-Province
Korea
0551-82-4321



朴恩貞
Staff
Quality Control Sec.
Nam Yang Fishing Net &
Gear Mfg Corporation
Nam Yaong of Naong (Ju)
Sek Hyun Dong Mok-Po-Si
Jeon-Nam Korea



朴鍾順
Farmer
589 Woul Lim Ri Kum
Soung Myon Jae Won-Kun
Choung Buk Province
Korea
(0443) 42-9770



林玉蓮
Farmer
Byeong Am Ri 262 Gwan
Chon Myeon Im Sil Gun
Jeon Buk Korea
0673-42-0409



崔教烈
Farmer
777 Okdae-4ri Da san
Myon Youngpong-Kun
Kyeong-Buk Korea
0572-33-5166



金昌會
Farmer
Vice Chairman
Yangpyung-Kun Rural
Leadership Office
178, Myungsung-Iri
Danwol-Myon Yangpyong-
Kun Kyonggi-Do Korea
0338-73-2060



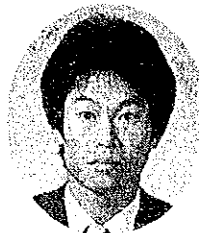
金鎮銅
Farmer
450 Juri Sonyang-Myon
Yang-Yang-Kun Kangwon-
Do Korea
0396-2-4428



金鎮洛
Farmer
221-15 Yeon Pyeung-Dong
Yeung Hai-Myeon Yeung
Dek Gun Kyeong-Buk
Korea
32-0991



李興圭
Farmer
Segok-Ri 161
Chil-Seong-Myon Guca-
San-Gun Chung-Buk-Do
Korea
32-5158



李教山
Farmer
Bangok Ri 359 Chil Bo
Myon Jeong Ub-Gun
Jeon-Buk-Do Korea
0681-34-3618



李水均
Farmer
Pyong-Chon Ansoung-Ri
Myosan-Meoun Hapchoun-
Gun Kyong Sang Nam-Do
Korea



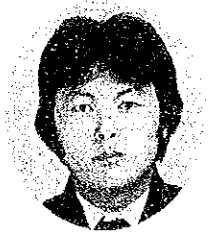
徐道焄
Farmer
225 Chur Chun Ri Bong
Hwang Myun Naju-Gun
Chung-Nam Korea



申載明
Extention Officer
Rural Guidance Bureau
Rural Development
Administration
#206 Jang-An Apt
220-37 Hwa-Sea Dong
Suwon Si Kyung Ki Do
Korea
503-7244 0331-45-8867
0331-6-2101



申正秀
Farmer
Juk Dong 102
Jung-Gu Daeneon-Si
Chung-Nam Korea
8222320



宋應俊
Farmer
1346 Tacheung-Ri Nam
Weon-Up Nam Jeju-Gun
Jejudo Korea
64-1351



宋永海
Farmer
196-28 Youl Hun Dong
Kangnam Ku Seoul Korea
(02) 406 4663

青年指導者 A



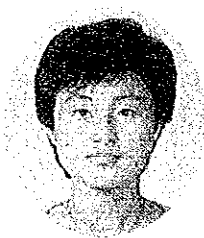
洪玉善 (班長)
Head-Quarters
Mountaineering Part
Korean Alpine
Federation
704 Kuemsan Bldg.
Yoido-Dong Youngdungpo-
Gu Seoul Korea
02-782-5539 02-816-4079



金賢珠
Manager
Kyungnam Council
Kyungnam Council Girl
Scout of Korea
274 Jasan-Dong
Kyungnam Council Girl
Scouts of Korea
Masdn Korea
0551-2-8240 0551-3-3097



金明順
Member
The Korean Association
of Sport for All
16 Tong 4 Ban
113-36 Shingil 1 Dong
Young Dug Po Gu Scout
Korea
02-690-2321 02-844-7713



廉美蓮
Councillor
Women & Youth Division
Planned Parenthood
Federation of Korea
316-13 Hyong Song-Dong
Buk-Ku Inchon Korea
032-522-1569 032-63-3439



趙澤九
Member
Sports Division
Leisure & Recreation
Association in Korea
226-9 Koduk-Dong
Kang Dong-Ku Seoul
Korea
02-544-5440 02-472-4789



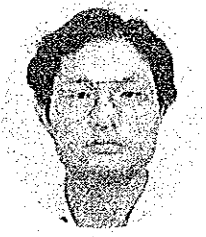
全萬童
Coach
Sports for All Korea
Association
Sport for All Korea
Association 172 Dunch-
ondong Kangdong-Ku
Seoul Korea
02-484-8914 02-470-0722



鄭容敏
Staff
Planning Department
The Korean Association
of Sport for All
770-13 Mog 4-Dong
Gangseo Gu Seoul
Korea
02-690-2321 02-696-7055



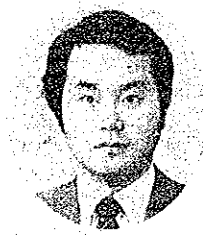
姜昌日
Plan. & Public Relations
Producer
Performance Management
Division
The National Theatre of Korea
San 14-67 2-Ka Chang
Chung-Dong Chung-Ku
Seoul Korea
02-274-1173 02-567-0001
0343-55-1507



金鍾底
Staff
Management Division
Korean Olympic
Committee
Korean Olympic Committee
19-Mukyo Dong
Chung-Gu Seoul Korea
02-777-6081 02-418-4682



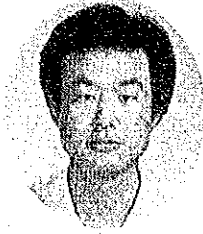
金南成
Member
Mountaineering Part
Korean Alpine
Federation
365-1 Hongje-Dong
Seodaemun-Gu Seoul
Korea
02-782-5539 02-736-5473



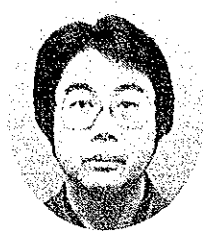
權卿周
Volunteer
Youth Section
Seoul Youth Center
13-307 Jangmi Apt
Shinchung-Dong Gangdong-
Gu Seoul Korea
02-267-2111 02-422-5666



李銑宰
Programme Coordinator
Unesco Youth Center
Korean National
Commission for Unesco
P.O. Central 64 Seoul Korea
02-776-4402 02-400-1241



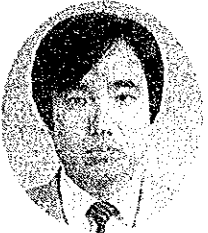
金善用
Supervisor
Programme Department
Korean Youth Hostel
Association
469-48 Buni-Dong
Dodong-Ku Seoul Korea
02-266-2896 02-994-0712



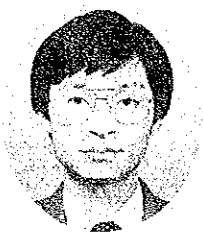
文錫奉
President
Directing Department
Theatre Company
Kwang Jang
200-175 1F Ga Room
Sinsadong Eanpueng-Gu
Seoul Korea
82-02-306-86
02-743-8741



朴德烈
Manager
Korean Literary Ass.
Seoul Association for
Youth Service
100-00 Seoul Youth Center
#27-1 Supyo-Dong Chung-
Ku Seoul Korea
02-267-2111~2113
02-733-8258



朴世完
Staff
General Affairs
Boy Scouts of Korea
Yeouido 18-3 P.O. Box 280
Seoul Korea
02-782-1803



辛文宗
Clerk
International Affair
Korean Publishers
Association
(107 Dong 401 Ho Jukong
Apt.) 459-11 Bisan-1 Dong
Anyang City Kyungki-Do
171 Korea
02-735-2702 0343-45-4923



申良淑
Secretary
Researching Division
Korean Publishers
Association
612-2 Ahyon-Dong
Mapo-Ku Seoul Korea
03-735-2701 02-362-9643

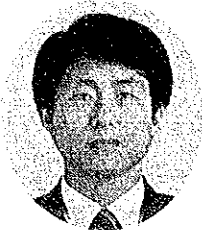


柳在奉
Staff
Youth Culture Dept.
The Korean Culture and
Arts Foundation
617-47 Ahyun-Dong
Mapo-ku Seoul, Korea
02-762-5231 02-362-7237



尹景泰
Secretary
Youth Department
Pusan YMCA (Young Mens
Christian Association)
Pusan YMCA 1143
Choryang-Dong Dong-ku
Pusan Korea
051-42-1659 051-57-4784

青年指導者 B



文炳善 (班長)
Assistant Director
Social Sports Div.
Ministry of Sports
Min. of Sports (Social
Sports Div.) Government
Bldg. Sejong-Ro 77
Chongro-ku Seoul Korea
02-734-0811 02-572-5927



姜鳳和
Staff
Folk Dance Devison
Leisure & Recreation
Association in Korea
182-162 Yeonhee-Dong
Seodaemun-Ku Seoul
Korea
02-544-5440 02-324-7786
02-543-7803



房珍珠
Buddhish Priest
Youth Section
Korean Young Buddhists
Federation
320-3 Seogyu-Dong
Seogyupo-Shi
Cheju-Do Korea
064-62-5675 064-62-5675



張日洪
Head Officer
Secondary Edu. Section
Board of Cheju Education
Cheju-Do Educational
Committee 311-46
Yon-Dong Cheju-Shi
Cheju-Do Korea
064-27-0181 064-53-7263



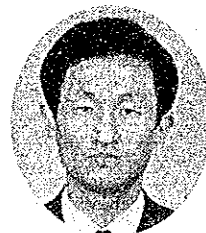
張萬石
PR Business
Public Relations Div.
Olympic Organizing
Committee
342-21 Kil-Dong
Kangdong-Ku
Seoul Korea
02-962-5805 02-470-4433



金正和
Official
School Affair Bureau
Seoul Metropolitan
Board of Education
Samdug Apt 408 198-1
Wonchong-Dong Puchan-Shi
Kyounggi-Do Korea
02-736-3219 032-662-6696



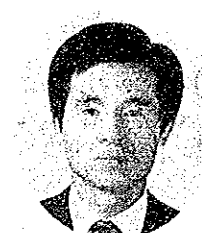
金洸炫
General Clerk
Education Management
Education Board of
Kyungsangnam-Do
35-304 Myung Gok Apt
Myung Gok-Dong Chang
Won-Shi Kyung Sang
Nam-Do Korea
0551-84-1304 0551-84-1654



金光植
Management/Planning
Korean National Sports
Foundation
104-11 Joonggok 4-Dong
Sungdong-Ku Seoul
Korea
02-779-2618 02-445-2649



金榮錄
Section Chief
Athletics Division
Nam Do High School of
Music and Arts
6-301 Kwang Shin Apt.
Du Am-Dong Kwang Ju
City Korea
062-521-6052 062-523-2103



李鍾一
Social Education
Social Physical Edu.
Board of Education
Chungcheong Nam-Do
249-30 Yucheon-Dong
Chung-Ku Taejeon-City
Chungcheongnam-Do
Korea
042-44-9301 042-524-3436



林德洙
Staff
Cultural Education Sec
National Museum of
Korea
Cultural Education The
National Museum of
Korea 1 Sejong-Ro
Chongro-Ku Seoul Korea
02-739-3872 02-744-3238



林虎男
Manager
Organization Division
Korea Youth
Association
490-13 (30/3) Bupyong
5-Dong Bug-Ku Incheon
Korea
02-841-9292 032-93-8494



朴錫珍
General Services Div.
Ministry of Education -
4903-17 Shinkil-Dong
Youngdeungpo-Ku Seoul
Korea
02-72--3343 02-833-5936



朴承憲
Senior Edu. Researcher
Office of Supervision
Ministry of Education
1-1405 Daelim Apt
Eungbong-Dong
Sungdong-Ku Seoul
Korea
02-720-3046 02-295-1702



魏玉煥
Secretary
Arts Promotion Div.
Ministry of Culture
and Information
Culture & Arts Bureau
Min. of Culture & Inform.
82-1 Sejong-Ro Chongro-ku
Seoul Korea
02-720-3836 02-486-1529



梁南眞
Official
Child Welfare Division
Ministry of Health and
Social Affairs
Child Welfare Division
Min. of Health & Social
Affairs Kwachon-City
Gyeonggi-Do Korea
02-503-7578 02-738-7229
02-503-7579



柳鍾春
Official
Classification Dept.
Chun-Cheon Juvenile
Training School
372 Shinchon-Ri Shin-
Dongmyon Chunsunggun
Kangwon Province Korea
0361-52-9203 0361-3-7954

6. 関連青少年団体住所録

- (社)青少年育成国民会議
(National Assembly for Youth Development NAYD)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター
中央青少年団体連絡協議会
(National Council of Youth Organizations in Japan)
〒160 新宿区霞ヶ丘町15日本青年館5階
Tel 460-4151
- (財)世界青少年交流協会
(The World Youth Visit Exchange Association WYVEA)
〒102 千代田区平河町2-7-3吉田ビル2階
Tel 470-2271
- (社)日本国際生活体験協会
(Japanese Association of the Experiment in International Living EIL)
〒102 千代田区麴町4-5橘ビル6階
Tel 262-6301
- (財)全国農村青少年教育振興会
(The Rural Youth Education Development Association)
〒162 新宿区新小川町4-19末ビル3階
Tel 261-3451
- (社)日本経済青年協議会
(Junior Executive Council of Japan JEC)
〒101 千代田区西神田3-2-7ランデック神田西ビル
Tel 235-7461
- (社)勤労厚生協会
(The Working Youth Welfare Association)
〒101 千代田区西神田3-2-7ランデック神田西ビル
Tel 264-3054
- (財)ユースワーカー能力開発協会
(Development Association for Youth DAY)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター
Tel 469-6421
- (社)国際交流サービス協会
(International Hospitality and Conference Service Association IHCSA)
〒105 港区新橋1-1-1日比谷ビル6階
Tel 508-2048
- (財)青年海外協力協会
(Japan Overseas Cooperative Association JOCA)
〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1外務省第一別館
Tel 580-1621
- (財)国際協力サービス・センター
(International Cooperation Service Center ICSC)
〒106 港区南麻布5-10-24第2佐野ビル6階
Tel 446-3651
- (財)国際協力サービス・センター
(International Cooperation Service Center ICSC)
〒162 新宿区市谷本村町42経済協力センタービル別館
Tel 355-6491

韓国青年招へい事業 (1987)

昭和63年 3月31日

監修 国際協力事業団

〒163 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル内

電話 (03) 346-5402~4

発行 財団法人国際協力サービス・センター

〒162 東京都新宿区市谷本村町42
経済協力センタービル

電話 (03) 355-6491

